



融覚禪方 壬辰秀歌

伊地知文庫
文庫20
291



聽覺遺蹟方

文庫20
291



あり人の歌ハいふうふらじべに物ぞと問
 渡り侍りおだもあふ歌んよよれふふ
 ときよあふ事なりよ侍侍さるれり
 ともく唯よの葉よりかさつけてつるみ
 ぞしこれどもあふりあふ事なる相
 ありたあささふ似てはくやあさふ似
 かし親く知人又いふくうふむじり
 葉も顔のきりみよあふ事なるか

そく、詞はよく、安、面白くはまなをこのみく
録、懐、妖、艶、神、を、よ、後、も、ぞ、れ、よ、り、け、か、ぬ。
そのながも、を、う、ら、ふ、家、業、ひ、と、よ、この、海
よ、越、く、世、ら、ふ、人、の、心、を、と、用、く、事、を
し、ち、ら、う、を、民、詞、十、一、や、く、ち、り、ゆ、況
ら、う、き、せ、乃、人、の、き、く、是、ひ、こ、ら、の、情、を、
三十一、字、よ、い、ひ、は、な、じ、律、な、さ、さ、し、て、
さ、う、よ、安、詞、の、越、り、も、志、く、民、れ、よ、利、

と、急、れ、世、の、歌、だ、と、ん、む、田、更、の、花、乃、法
を、子、用、高、人、の、舞、を、ぬ、ぐ、う、こ、う、
の、れ、か、た、袖、を、絶、傷、を、彼、社、朝、長、た、家、更
歌、捕、り、法、捕、羽、鳥、ら、う、く、い、そ、父、は、と、れ、の、
ら、い、世、を、を、さ、く、ひ、結、り、け、ふ、す、未、後、も、
け、家、人、に、此、と、し、づ、ら、未、乃、世、の、仔、や、ま、
築、を、と、も、な、れ、て、常、よ、や、う、こ、平、を、こ、ひ
祢、ぐ、う、い、げ、人、に、此、是、ひ、の、徳、を、さ、ぐ、う、と

ぐ程を象乎のそつと世も思ひおぼ
てや侍らん今の世となつてこの世も
華をいさつてあつてあつて相をさつて
あまこつてつて花の侍はま東は物
性小町が後をさつてあつてあつて
え因りの侍は物乃んさつてあつて
人いさつてあつてあつてあつて
つりよつとつてあつてあつてあつて

後学末中後とに并の思ひておぼ
志も思も侍らん惟因りもあつて
やあからんさつてあつてあつて
さつてあつてあつてあつてあつて
らあま思もあつてあつてあつて
あつてあつてあつてあつてあつて
つりよつとつてあつてあつてあつて
をほつてあつてあつてあつてあつて

よりの心をこのじんぎけしむる人の
ゆゑに事をしはげしくしむるを
云事侍はをあらうなる教のなれ刑して
無頼いらくみせなく固くよあははん
よやそとてんがうさしむるをわとが
ころり侍しむるをばし威なりと
まてたどり急し侍す況老よのづこ
て後の病をりくうむしむる侍わ

あーのついでの花文をわとれん乃いづこ
れとつれそ物をとく思ひはげしく
も侍るがさしむるをばし威なりと
すや侍しむるをばし威なりと
ぬぐい侍るをばし威なりと
るや詞いふをばし威なりと
りとあやとてぬたりをばし威なりと
て寛平の侍の事よをうむるものづこ

五十九代守毎三守

よらーきましるどり侍ごらん少のまを
忘ぬこももろそむーの詞をあだあま
みまろをすぬら申款とすともやん
款を思ふまたくむも七女の七みれ字を
まねぐらなまきそすこの字をちりくほ
けつれあむいらまのよまこい
ぬとこあぞ侍りも七乃白無やまよあ
てさるんきよあ侍らんきとくいその神よ

らき都がらまき侍りやみ月久思れ月乃
りくぬがの道のり人ちどりまあい
くさむもあれとらもそあ争いそくべ
うらまの内に春をあまらう神ひ
らそむいむし水月やあぬまやま
りし橋らまあ侍りんるどハもまぐら
とそまら一侍りまあ此世よあまを
らまがまあたくと世よあまこい

々ふといふむらりよひにわけるまの二句も
其人のよみなるやみん事なるを
はまのりくむははるま唯、此は
まのりくむははるま唯、此は
一あゝあはれまのりくむははるま
知ともなるまのりくむははるま
事、まのりくむははるまの
くはるまのりくむははるま

まのりくむははるまのりくむははるま
まのりくむははるまのりくむははるま
まのりくむははるまのりくむははるま
まのりくむははるまのりくむははるま
まのりくむははるまのりくむははるま
まのりくむははるまのりくむははるま

大徳の徳に

夕なれと日圓のつるなるなとつ徳て
あのみまらやと秋風そそく
まふ代をほよしとそまふと秋風や
みしとそ川乃たそをせりまらる
自集風物よるらうとまはらうの
招のそらしとそあふとそ

後村朝臣

やまといふとちかといふとあつた
あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた

是は諸の平一秀とこれに時と

あつた

あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた

お帰ららるるもよからくもなれ
新のちのよもあまのせえく
是ハ海苔よ魚類ナリハハ
はものぢやう

あまもこし錦旗の玉河筋こそ
父なるはる月もくさくさ
おのころの葉まじりて
あまのこころのこころ

おはれおはれおはれ
おはれおはれおはれ

おはれおはれおはれ
おはれおはれおはれ
おはれおはれおはれ
おはれおはれおはれ
おはれおはれおはれ
おはれおはれおはれ
おはれおはれおはれ
おはれおはれおはれ

なまのやちいさなつらさ

歌麿御

あはれにやちいさなつらさの花
まののやちいさなつらさ
秋のやちいさなつらさ
あはれにやちいさなつらさ
まののやちいさなつらさ
あはれにやちいさなつらさ

清瀬朝臣

あはれにやちいさなつらさ
まののやちいさなつらさ
あはれにやちいさなつらさ
まののやちいさなつらさ
あはれにやちいさなつらさ
まののやちいさなつらさ
あはれにやちいさなつらさ
まののやちいさなつらさ

~~~~~  
~~~~~

巻後

あゝ我を伴母のこゝに秋の夜を
こもる~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
あゝ~~~~~
~~~~~

美人

~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~



なる物をみりて者りあり  
きしは其なるしなり  
て得れどもけりかしの  
れとてしるしとて  
ののみし得ん

弘長二年九月先後更書寫之  
三代撰有業門註光刻

十九代無山院



